

滅菌装置見直しを経験しての知見 ～当院におけるプラズマ滅菌器導入効果～

植松 未広 宗教法人聖フランシスコ病院会 聖フランシスコ病院
手術棟 (中央材料室・手術室・ME 機器室) 看護師長

当院では、2001 年 2 月に長崎県内の民間病院として初めて低温プラズマ滅菌システム「ステラッド®100S」を導入し、既に 5 年半経過した。導入前までは、当然のように高圧蒸気滅菌装置 (オートクレーブ) と EOG 滅菌装置との 2 本立てで運用していた。しかし、その当時、EOG 滅菌装置の老朽化もあって、頻繁に故障するようになった。その為、少なからず業務にも影響を及ぼす結果になった。

更に、EOG 滅菌装置を設置している作業室内で、わずかながら変な臭いを感じる事があり、作業環境測定を実施した。その結果、EOG 管理濃度基準を上回る異常値を示した。そこで、滅菌機器の選択をどうするか? 院内で検討を行った。

2001 年 4 月 1 日、東京都環境確保条例施行。2001 年 5 月 1 日、労働安全衛生法施行令等一部改正などの情報収集、機器の特徴・経費等、様々な観点から滅菌機器のメリット・デメリットを含めた協議を重ねた。その結果、手術用器材をはじめ、医療の現場で用いられる器材を【安全で確実に滅菌】が行え、かつ【人にも環境にも安全】な「ステラッド®100S」の導入へと繋がった。

しかし、「ステラッド®100S」の導入を行ったことで、新たな問題や疑問点も生じた。それには、1 つ 1 つ改善対策を講じた。それが業務改善である。

滅菌機器の運用基準は何か? その手順は? ・ ・ ・ と進める中、装置の 1 工程にかかる費用はいったいいくらか? 私は、色々と考えさせられた。そして、私は、何より最も大切なことを発見することができた。

それは、「だれもが予想もしなかった大きな付加価値を見つける事ができた」ことである。

最後に、「安全を手に入れるのに、お金がかかるのは当たり前」だからといって「どんどんお金を使いなさい」といっているのではない。必要な時には、可能な限り「人・物・金」・ ・ ・ という発想である。

私は、こういう認識を持って、今後も取り組んで行きたいと考えている。今日の発表では、主に次のことについて述べる。

- 1、 当院の概要 ほか。
- 2、 「ステラッド®100S」 導入前の当院の現状。
- 3、 「ステラッド®100S」 導入後の当院の現状。
- 4、 「ステラッド®100S」 の高いハードル。
- 5、 滅菌機器 (装置) の経費と内容の比較。
- 6、 当院での運用方法。
- 7、 その他。